

# 会報

(No.479)

2025年7月

題字：故 津村重舎元会長



ウコン (写真提供：元昭和大学薬学部 磯田 進 先生)



公益社団法人 東京生薬協会

Public Interest Incorporated Tokyo Crude Drugs Association

# 会報

## 目次

No. 479 2025年7月

【表紙】 ウコン 写真：元昭和大学薬学部 磯田 進

### ■ご挨拶

巻頭言：『生薬の里 美郷』これまでとこれからと ..... 秋田県美郷町長 松田 知己 ..... 3

### ■寄稿

生薬のチカラは、漢方のチカラ (3)

..... 昭和医科大学薬学部 天然医薬治療学部門 川添 和義 ..... 4

ロシア・プリモリーエ植物紀行 (4)

..... 植物写真家・研究者 いがり まさし ..... 8

薬用植物園を訪ねて(8) 帝京大学薬用植物園

..... 広報委員会 池村 国弘・和田 浩志・磯田 進 ..... 11

委員会だより ..... 15

連絡事項・行事報告・ご寄附のご報告 ..... 18

新役員名簿 ..... 20

【裏表紙】 四季の薬草・ウコンの解説 ..... 元昭和大学薬学部 磯田 進

# 『生薬の里 美郷』 これまでとこれからと

秋田県美郷町長  
松田 知己



美郷町が東京生薬協会様と連携協定を結び、会員各位からお世話になりながら薬用植物栽培に取り組んで12年。これまでさまざまな形でご指導をいただき、また、広く関わっていただいております。心から感謝を申し上げます。

皆さまご存じの美郷町と思いますが、改めて町の概要を紹介します。美郷町は県南部の内陸に位置し、日本一大きいとされる横手盆地のほぼ中央にあります。肥沃な土壤が広がり、その広さゆえに町を包含する地域名で「仙北平野」とも呼ばれる穀倉地帯です。また、羽州街道沿いに位置し、久保田藩初代藩主の父親である佐竹義重公が居城を置くなど、かつては政治、交通などの要衝の地でもありました。こうした立地背景のもと、江戸後期には紀州に縁のある商家が町内で甘草を栽培し、藩の薬草園とも交流があったことが分かっており、かつて薬用植物栽培に関わりのあった地です。また、株式会社龍角散 藤井隆太社長のご先祖様が江戸後期に現在の美郷町内に居住していたことも分かっており、龍角散様ともご縁のある地です。こうした歴史的な繋がりを踏まえ、美郷町では合併町として新たな個性を確立すること、そして農業振興を図ることを目的に、薬用植物栽培に挑戦しました。

栽培は課題の連続でしたが、それに対応しながら、キキョウについては、栽培4年目に初出荷を果たし、それを励みに少しずつ面積拡大に努めるとともに、作業上の効率化を図るために昨年度は定植機や根の洗浄機、乾燥機なども導入したところです。エイジツについては、自生種から棘の少ない個体を選抜し増殖させるとともに、乾燥調製上の課題である実の軸取り機械を開発してもらい、課題はあるものの3年前から軸取り機械を稼働させております。また、生薬以外の用途での引き合いもあり、利用の幅が広がる可能性を帯びてきているところです。カンゾウについては、長らく栽培体系の試験を行いながら、大阪医科薬科大学の芝野教授と優良系統の選抜に取り組んだ結果、現在は種苗用ストロンの増殖栽培に取り組みつつ、合わせて今年度は収穫を目的とした本格栽培に着手したところです。ホオノキについては、毎年植樹を重ねた結果、約1,000本のストックに至りました。初年度の植樹木は間伐を行わなければいけないところまで生長し、現在、間伐木の利用に向けた調整も行う状況に至っております。

こうした取り組み全般については、町内農家で組織した「美郷町生薬生産組合」で情報共有し、引き続き安定した栽培体系の確立をめざすとともに、参加農家及び栽培面積の増加に努めているところです。美郷町としては、こうした取り組みを継続させていく中で、「生薬の里」として広く認識、認知され、「確たる町の個性」となること、そして営農作目として「収益上も魅力ある選択肢」になること、さらに健康に関わる作目生産として「農業者の誇り」も喚起していくことをめざしてまいります。

そのためにも皆さまには、引き続き美郷町の薬用植物栽培に関わりを持ってくださるようお願いいたしますとともに、各般にわたる美郷町の取り組みに「ふるさと納税」という形でもお力添えをいただければ幸いですよう、心からお願いを申し上げます。

# 生薬のチカラは、漢方のチカラ(3)

～消化器症状に利用される一般用漢方製剤～

● 昭和医科大学薬学部天然医薬治療学部門 川添 和義 ●

## はじめに

今回は、特に OTC 医薬品での利用が多い消化器疾患に対する漢方薬について、生薬と処方を中心に解説したい。なお、漢方薬の原理や漢方医学的なカラダのしくみなどについては、前々回の寄稿である『生薬のチカラは、漢方のチカラ(1)』で詳しく解説しているので、ここでは詳細な解説を割愛する。必要に応じて、参考にしていただきたい。

現在、一般用漢方製剤として認可されているものは 294 処方ある。医療用漢方製剤が 148 処方であることを考えると、ほぼ 2 倍の数が認可されていることになる。商品の品目では 2,000 以上あることを考えると、OTC 医薬品として販売されている漢方薬を正しく利用することはとても重要である。薬局で販売されている漢方薬は耳鼻咽喉科系、消化器系、泌尿器系、筋肉関節・皮膚系、精神系、心血管系、婦人科系などに分類されるが、中でも消化器系の漢方薬は多い。わが国の民間薬としても「おなかの薬」として、例えば、正露丸、奈良の陀羅尼助、信州の百草など、有名なものが多い。

## 「おなかの薬」が多い理由

では、なぜ、消化器系に働く漢方薬や民間薬が多いのか。これは、漢方医学的な考えと関係がある。漢方では、私たちの身体は気・血・水の 3 つの生理学的要素によって活動していると考えていて、その中でも気は身体を動かす基本的なエネルギーであり、また、血の原料としての栄養分であり、さらに、カラダを温める陽気でもある。つまり、気はある意味、最も重要な要素と考えられる。気の産生については以前の寄稿でも解説したが、改めて、図 1 に示した。気の起源は 3 つあり、大気から得る「自然界の清気」、食から得る「水穀の精微」、そして、両親から受け継ぐ「先天の精気」である。このうち、水穀の精微は生命活動を維持するために最も重要なものと考えられていて、これを作り出す器官が脾・胃であることから食から気を作り出す働きを「脾胃の働き」と呼ぶ。脾や胃、つまり消化器官は生命を支える最も重要な器官であることから、消化器系に働く薬が多くなってきたと考えられる。

今回は、消化器系疾患の中でも食欲不振に利用される処方、特に一般用漢方製剤を中心に解説したい。現在、OTC 医薬品を含めて漢方薬として

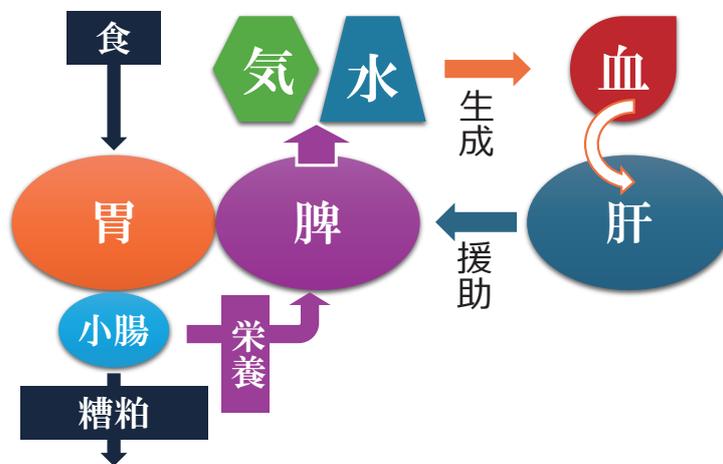


図 1 脾胃の働き

表1 代表的な食欲不振の処方と治療原理

補脾	気血双補	清熱	理気
香砂養胃湯*	十全大補湯	小柴胡湯	平胃散
香砂六君子湯*	人參養榮湯	生姜瀉心湯*	加味平胃散*
柴芍六君子湯*	補中益氣湯	半夏瀉心湯	
六君子湯	清暑益氣湯	柴葛解肌湯*	
藿香正氣散*		延年半夏湯*	
參苓白朮散*			

香砂養胃湯	人參	白朮	茯苓	甘草	生姜	大棗	陳皮	蒼朮	厚朴	香附子	縮砂	木香	白豆蔻
香砂六君子湯	人參	白朮	茯苓	甘草	生姜	大棗	陳皮	半夏	藿香	香附子	縮砂		
柴芍六君子湯	人參	白朮	茯苓	甘草	生姜	大棗	陳皮	半夏	柴胡	芍藥			
六君子湯	人參	白朮	茯苓	甘草	生姜	大棗	陳皮	半夏					
藿香正氣散	蘇葉	白朮	茯苓	甘草	生姜	大棗	陳皮	半夏	厚朴	大腹皮	桔梗	白芷	藿香
參苓白朮散	人參	白朮	茯苓	甘草	山藥	桔梗	縮砂	蓮肉	扁豆	薏苡仁			
四君子湯	人參	白朮	茯苓	甘草									

図2 補脾作用のある処方の構成生薬

「食欲不振」を目標としている処方の代表的なものを、治療原理に分けて表1にあげた。このうち、\*がついているものは医療用漢方処方にはない処方である。

### 補脾を目的とした処方

脾気が不足して食欲不振のある場合には、脾の働きを高め、気の産生を改善する処方を利用される。気の不足は、先天的に不足している虚弱のほか、不規則な食生活や無理なダイエットによる水穀の精微の不足、ストレスによる肝気の流れの悪化、長期の入院などが主な原因である。脾胃の働きには肝の働きが大きく関わっているが、脾の働きが低下して気や水の産生が低下すると血が産生できず(血は気と水から作られる)、肝の働きが悪くなる。すると、脾の働きは更に悪くなるという悪循環に陥る。これが脾気虚である。この改善に利用される生薬が人参、黄耆、白朮で、これらは補気薬と呼ばれる。さらに、甘草、大棗、生姜は協力して健胃作用を示し、これら6種類の生薬で脾胃の働きを高めることができる。補脾作用を期待した処方の構成生薬を見ると、ほぼ全てにこれらの生薬(黄耆を除く)が配合されていることがわかる(図2)。では、これら処方はどうのように使い

分けることができるだろうか。

まず、基本的な六君子湯から考えてみると、構成生薬としてこれら以外に半夏、茯苓が配合されていて、生姜を加えて小半夏加茯苓湯の方意もあることがわかる。つまり、吐き気にも利用できる。また、理気薬である陳皮が加わることによって消化を助けている。六君子湯の加減方が香砂六君子湯、柴芍六君子湯であり、これらは医療用漢方処方にはない処方である。香砂六君子湯は六君子湯に理気薬である藿香、香附子、縮砂を加味したもので、芳香性の強い生薬は気分の改善、頭痛の緩和に働くことから、六君子湯証で、かつ、気分が沈みがちで頭が重い場合に利用できる。一方、柴芍六君子湯は六君子湯に柴胡と芍薬を加味したもので、柴胡は肝気の働きを改善し、芍薬は甘草とともに鎮痙作用が期待される。したがって、精神的な原因がある胃痛に利用できる処方となる。

藿香正氣散も一般用医薬品のみであるが、暑さにあたって食欲不振、下痢を惹起している場合に利用される。これは、胃が冷えて、さらに汗が出にくい(体表に寒湿が入って体表の生理が悪くなっている)ときに、暑さにあつたために発汗できず、嘔吐や下痢、食欲不振をきたしたと考え

られる。基本は六君子湯であるが、これに胃気の流れをよくする厚朴、藿香、大腹皮(檳榔子の果皮)などが配合され、さらに体表を温める白芷や蘇葉が含まれている。

### 気血双補を目的とした処方

気の不足は血の不足をもたらし、多くの疾患の原因となる。気虚だけではなく、それに伴う血虚により、貧血様症状、皮膚疾患、筋肉関節痛などが生じる。そこで、気とともに血を補うことで改善するのが、気血双補の考え方である。多くは当帰や地黄といった補血薬が補気薬とともに配合される。

代表的な処方の構成生薬を図3にあげた。いずれも、補気薬以外に補血薬である当帰、芍薬、地黄などを配合していることがわかる。十全大補湯は四君子湯と四物湯を合わせた構成となっていて、それに補気作用のある黄耆と理気作用のある桂皮が配合されている。気と血の双方が著しく消耗している状況を改善する処方と見ることができ

る。十全大補湯から川芎を抜き、陳皮及び、五味子、遠志を加えたものが人參養栄湯であり、これらの鎮咳去痰作用や安神作用(気持ちを落ち着かせる働き)により、体力が消耗しているときの不眠や咳嗽を改善する。

一方、補中益気湯は先述の基本的な補気薬、健胃薬に加えて、陳皮、当帰、柴胡、升麻が配合されている。陳皮は胃気の流れをよくし、当帰と柴胡は肝における血の産生を促し肝気の流れを改善している。さらに、柴胡、升麻により、気の減少によってひきおこされた内臓の下落(痔、脱肛など)を改善している。基本的に、補中益気湯は補脾を目標としたもので、強い熱感は少ない。一方、暑さにあたりすぎて激しい発汗や口渇があり、さらに熱感が強い場合は、麦門冬、五味子を配合した清暑益気湯が有効と考えられる。麦門冬は滋陰作用があり、五味子には止汗などの収斂作用が期待される。先述の藿香正気散も暑さが原因で食欲不振になっている場合に利用されるが、清暑益気湯とは少し利用方法が異なっている。藿香

十全大補湯	人參	白朮	甘草	黄耆	茯苓	当帰	芍薬	地黄	川芎	桂皮		
人參養栄湯	人參	白朮	甘草	黄耆	茯苓	当帰	芍薬	地黄	桂皮	五味子	遠志	陳皮
補中益気湯	人參	白朮	甘草	黄耆	生姜	当帰	陳皮	大棗	柴胡	升麻		
清暑益気湯	人參	白朮	甘草	黄耆	黄柏	当帰	陳皮	大棗	五味子	麦門冬		

## 補気作用 + 補血作用

食欲不振だけではなく、血の不足によるトラブルも解消してくれる



図3 気血双補を目的とした処方の構成生薬

	藿香正気散	清暑益気湯
気の不足	ある	ある
気の流れ	悪い	問題ない
潤いの不足	ない	ある
血の不足	ない	ある
腹痛	ある	あまりない
下痢	ある	ある
嘔吐	ある	あまりない
発汗	ない	ある



図4 藿香正気散と清暑益気湯の使い分け

正気散は気の流れが悪く、どちらかといえば水の滞りがあるため、発汗は強くなく下痢や嘔吐が見られるときに利用するが、清暑益気湯の場合は逆に過度の発汗や下痢などで潤いが不足しているために食欲不振になっている状況に利用する(図4)。

### 清熱作用を目的とした処方

何らかの理由で胃に熱があり、そのために食欲不振となっている場合は、清熱薬によって改善する。主な処方の生薬構成として、補脾薬としての人参、健胃薬としての甘草、生姜、大棗、それと、黄芩、黄連、柴胡などの清熱作用を持つ生薬、気の上衝を抑える半夏などが配合されている(図5)。代表的なものとして、半夏瀉心湯があり、気の流れが悪化することにより脾が冷えて、胃が熱を持っている状況で下痢や嘔吐があり、食欲不振となっているのを改善する。原因は、ストレスなどによる気の流れの悪化であり、上部に気が集まって熱がこもっている状態である。そこで、清熱薬としての黄芩と黄連で、胃と上部の熱を除く。同時に、脾は冷えているため、乾姜や人参で温め補い、下痢を改善している。気の滞りにより、みぞおちが苦しく感じるのを心下痞しんかひという。心の下(つまり、みぞおち)にある「塊」、つまり心下痞を除くという意味で瀉心湯と名付けられている。

小柴胡湯も胃熱による食欲不振に有効な場合がある。半夏瀉心湯とは状況が異なり、風邪をこじらすなどで肝・胆が発熱し、それによる胃の発熱

で食欲不振になっている。この場合、肝・胆の発熱を黄芩、柴胡で抑え、健胃・補脾作用のある人参で消化器系の機能を改善している。また、半夏は胃気上逆による嘔気嘔吐に有効である。

### 理気作用を目的とした処方

最後に理気作用を目的とした平胃散、加味平胃散のしくみについて簡単に紹介する。原因は甘いものや脂っこいものの食べ過ぎなどで、湿が中焦(胃のあたり)に溜まったことにある。湿は気の流れを悪くするため、脾胃の働きが低下して胃痛や嘔吐、食欲不振が起こる。そこで、蒼朮により湿を乾かし、陳皮、厚朴により気の流れを改善して、甘草、大棗、生姜の健胃作用で湿を除いて胃の働きを回復させている。加味平胃散はこれに消化薬である神麴しんきく、麦芽、山査子加わって、更に胃の働き改善を強化したものとなっている。

### おわりに

今回紹介した処方の多くは医療用製剤にはなく、OTC医薬品としてのみ購入できる一般用漢方製剤である。冒頭で述べたとおり、漢方処方では医療用より一般用の方が2倍近く多く用意されている。漢方薬は非常に幅広い範囲の疾患をカバーできる医薬品であり、まさにセルフメディケーションの優等生といえる。医療用漢方薬から少し視点を変えてOTC医薬品としての漢方薬を見直して、漢方薬の可能性や広がりを感じていただければと思う。

#### 清熱を目的とした処方

半夏瀉心湯	人参	甘草		大棗	半夏	黄芩	乾姜	黄連				
生姜瀉心湯	人参	甘草	生姜	大棗	半夏	黄芩	乾姜	黄連				
小柴胡湯	人参	甘草	生姜	大棗	半夏	黄芩	柴胡					
柴葛解肌湯		甘草	生姜	大棗	半夏	黄芩	柴胡	葛根	麻黄	桂皮	芍薬	石膏
延年半夏湯	人参	桔梗	生姜	枳実	半夏	柴胡	呉茱萸	土別甲	檳榔子			

#### 理気を目的とした処方

平胃散	甘草	生姜	大棗	蒼朮	陳皮	厚朴			
加味平胃散	甘草	生姜	大棗	蒼朮	陳皮	厚朴	神麴	麦芽	山査子

図5 清熱と理気を目的とした処方の構成生薬

## ロシア・プリモリーエ植物紀行(4)

● 植物写真家・研究者 いがり まさし ●

## 4. スミレ編 その1 キョクトウスミレ

前回書いたように、1998年にロシア科学アカデミー極東支部生物学土壌学研究所の Andrey Ev. Kozhevnikov が調査の誘いをかけてきた時のふれこみは「中国国境近くにスミレの豊富なエリアがある」ということだった。

むろん、私にとっては初めて見る種が多く、同定もまったく心もとない。フィールドでは学名をいちいち聞いて書き留めている時間も惜しいし、第一彼らさえ文献と照合しないと心もとないものも少なくなかった。

今だったら写真を送り合って簡単に同定できるが、時代はインターネット黎明期。カメラはフィルムのみだった。どうやったかという、合番を振った標本を複数枚作り一枚ずつ持ちかえり、その同定結果をもらうというやり方だ。結果が届くのは秋ごろだったと記憶しているが、それまでは自分の覚えで仮の名をつけた。白花で卵形の葉のスミレは「シロタマゴスミレ」、白花で心形の葉のスミレは「シロハートスミレ」、コスミレに似たものは「コスミレモドキ」という具合だ。

そのうちのひとつ、シロハートスミレは、かなり珍しいものだとわかった。1968年に記載され、この周辺に数か所しか確認されていない *Viola extremiorientalis* Vorosch. & N.S.Pavlova だというのである。私達はその後もその一箇所で見えていないが、一説には朝鮮半島や中国東北部にも見つかっているという。和名はなかったが種小名の直訳でキョクトウスミレとしていた。葉は単葉だが花はヒゴスミレによく似ている。

フランス人の研究者 Marc Espeut は、2020年に、*V. tokubuchiana* var. *extremiorientalis* (Vorosch. & N.S. Pavlova) Espeut とヒナスミレ(フジスミレ)の変種に組み替えたが、これはどう見ても誤りである。ヒナスミレよりは葉は厚く頑強で、乾燥した岩場に生え、どちらかといえば韓国で見るコマスミレに近縁に感じられる。Marc

は萼片の付属体のサイズを根拠にヒナスミレに近縁としているが、Platel(→ p.10)のように、そのサイズはむしろコマスミレ *Viola albida* Palib. やナンザンスミレ *Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker に近い。また、側弁の有毛状態や葉身基部の形態なども同様にコマスミレに近い。まだ遺伝子解析などは行われていないようだが、系統的にはコマスミレに近縁な独立種が妥当だろうと思われる。

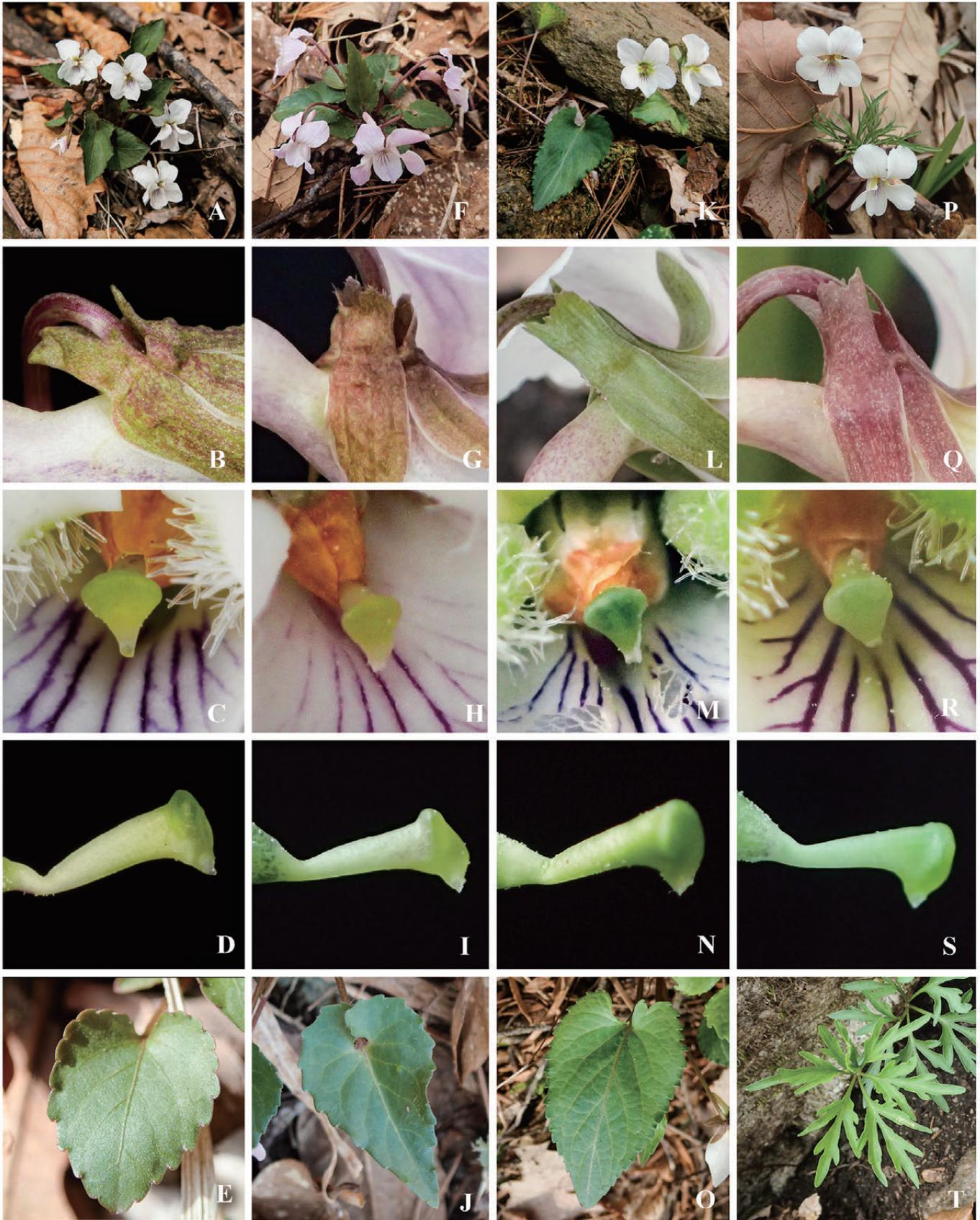
ちなみに、Espeut は私達と同世代の男で、2000年頃南仏の自宅へ訪ねたことがある。パステイス(彼らはリカーと呼んでいた)を飲みながら、鶏肉をトマトで煮込んだ手料理をご家族と囲んだ。雑談中にヨーロッパの文献で気にかかっていた学名があり聞いてみたところ、当時流行していた赤い iMac を叩いて、クラリスワークスのデータベースから「これは何某のシノニムだ」と即座に教えてくれた。名前通りエスパーかと思ったりしたものだ。2020年ついにその Espeut の仕事がユーラシア大陸の東端に達したのが、Revision of the genus *Viola* L. (Violaceae) in the Russian Far East with notes on adjacent territories. *Botanica Pacifica. A journal of plant science and conservation*. 2020. 9(1) : 3-52 という仕事である。これは Ylist の米倉浩司博士も「労作」と太鼓判を押す優れた仕事だが、いかんせん標本と文献からのアプローチが主で、彼もエスパーではない。実際のフィールドを見ている我々からすると、まだまだ改訂の余地がある。

ちなみに、米倉氏は Espeut の扱いをもとに、上記学名にキョクトウヒナスミレという和名を提唱しているが、上述のような理由からここではキョクトウスミレを使う。



写真(2点)：キョクトウスミレ。ロシア・プリモールエ 中国国境に近いスイフン川 (ロシア名・ラズドリナ)に面した岩山の乾燥した岩場に知られるめずらしいスミレ。一帯にはフイリゲンジスミレ *Viola variegata* Fisch. ex Link やテガタスミレ *Viola dactylodes* Schult.、マンシュウスミレ *Viola dissecta* Ledeb. など10種以上のスミレが自生する。

# Plate 1



**A-E** *Viola extremiorientalis* Vorosch. & N.S.Pavlova, Prymorie Russian Far East.  
**F-J** *Viola tokubuchiana* Makino var. *takedana* (Makino) F.Maek., Nagano Pref. Japan.  
**K-O** *Viola albida* Palib., Gyeonggi-do, South Korea.  
**P-T** *Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker, Gyeonggi-do, South Korea.

# 薬用植物園を訪ねて(8)

## 帝京大学薬用植物園

● 東京生薬協会 広報委員

池村 国弘  
和田 浩志  
磯田 進

帝京大学薬用植物園は、関東平野から西へ一歩踏み出した相模湖エリアに位置し、緑深い山並に抱かれるように広がる薬用植物園です。植物展示敷地は3,060平方メートルに及び、見本園・温室・樹木園・圃場を備え、500種以上の薬用植物が栽培されています。

今回、園内をご案内下さったのは、薬学部准教授として教鞭を執られ、植物園管理の責任者でいらっしゃる山岡 法子先生と、前任の植物園管理責任者でいらしかった、村田 郁子先生です。



植物園入口



帝京大学薬用植物園のみなさま  
和田 正孝様、小川 修一様(写真左)、  
山岡 法子先生(写真中)、村田 郁子先生(写真右)

### ■植物園の沿革と「けし園」

帝京大学薬用植物園は、1977(昭和52)年、帝京大学薬学部の開設と同時に、神奈川県相模原市緑区(当時は神奈川県津久井郡相模湖町)の地に開園しました。

開園当初より、全国でも珍しい「けし園」が併設され、法規制の対象となっているケシ *Papaver somniferum* を、国の許可を得て栽培していたことが、大きな特色です。

その後2012(平成24)年、薬学部キャンパスは東京都板橋区に移転となり、「けし園」は惜しまれつつ閉園となりました。植物園自体も、園路の舗装や温室の改装など大規模な整備を行うこととなり、2年間の休園を経て、2014(平成26)年に再開されました。



現在の見本園にて



以前の見本園空撮(写真提供 山岡 法子先生)

再開後の園内は全面的にバリアフリー化され、隣接して建設された介護施設の利用者が散策できるようになりました。もちろん、大学の薬用植物園として学生の教育に資する機能も依然として最重要ですので、日本薬局方収載の生薬基原植物を中心に、医薬品や民間薬とされる植物を幅広く植栽し、維持管理なさっています。

その後、2022(令和4)年には園内区画工事により、見本園、樹木園の移動があり全体に縮小しました。そのため、古い木本類は失われましたが、見本園の草本類はほぼ維持しているの、コンパクトに見やすくなっています。

### ■見本園と、みどころの植物

真新しい見本園は、風光明媚な立地ならではの光と風に満ちて、通路も広々としています。遠方には南高尾・奥高尾の山稜線を借景とし、首都圏の植物園の中でも屈指といえる広大な景観を望みつつ、植物と向き合って学びを深めることができます。



満開のノイバラ



発達した花序を見せるコウモリカズラ



花芽をもったウラルカンゾウ



白花のオオアザミ

オウレン *Coptis japonica* は、日本固有種であるとともに、わが国における生薬オウレン(黄連)の基原植物とされ、複葉の分かれ方によってキクバオウレン・セリバオウレン・コセリバオウレンの3変種に分類されます。この3変種を並べて植栽し、同時に比較観察できるコーナーは、当園の特徴のひとつとなっております。

季節ごとの花々も注目です。取材に訪れた5月の中旬には、形よく仕立てられたノイバラがちょうど開花最盛期を迎え、学名 *Rosa multiflora* の意味通り「たくさんの花」に埋もれんばかりの姿となって、芳香を漂わせていました。

さらに生薬カンゾウ(甘草)の主たる基原植物である、ウラルカンゾウの筒栽培では、株の勢いが良好で、葉の数も花芽の数も理想的な株が生育していました。

また中国では生薬ボウイの基原とされる(分布は日本にもある)コウモリカズラが勢いよく伸長し、大きく発達した花序も見事です。西洋ハーブで用いられるオオアザミ(マリアアザミ)は通常は

赤紫色の花ですが、珍しい白花の系統が咲いているのも観察できました。

これらの植物たちの良好な生育具合から、日常の植物管理が適切かつ丁寧に行われ、管理なされているスタッフも含めた皆さまの、植物への愛情を感じるひとときでした。

## ■温室

温室では多種多様な熱帯／亜熱帯性の植物が、所狭しと生育しています。中でもゲッキツ類(ミカン科ゲッキツ属ほか)の収集は充実しています。さらにゲットウ(ショウガ科)、生薬や香辛料となる植物や熱帯果樹など、年間いつでも見どころがあります。

翡翠色の花序をつけるフィリピン原産のマメ科植物、ヒスイカズラもよく開花するとの山岡先生のお話でした。



温室入口から内部を望む



オオバゲッキツの開花

## ■樹木園～面積・樹種ともに充実の薬用樹木

薬用植物には木本植物も多数あり、樹木の展示栽培も重要です。「樹木園」は、2022年の園内工事で一部の樹木が失われたとは言え、面積も十分確保され、重要な薬用樹木が揃っています。

新たに整備されて若い薬樹が育つエリアでは、ゴシュユの基原植物のうち、わが国では見る機会の少ない *Euodia officinalis* (ホンゴシュユ)が複数あり、樹齢はまだ若いのですが、花芽もつけていました。もちろん、いわゆるゴシュユ(ニセゴシュユ) *E. rutilarpa* も近くに植栽されており、開花期・結実期を通じて、両者を比較できることが楽しみです。またキササゲも、若木ながら開花結実しています。高木となるキササゲでは、視線の高さで開花結実を観察できる機会が限られますから、こちらの樹木園の植物は、貴重な教材となっています。

この「新」樹木園は、まだ植栽用地に余裕があり、薬樹のコレクションを順次充実なさってゆくとのお話でした。樹木とコレクション、それぞれ



ホンゴシュユの花芽



トチュウをはじめとした大きな薬樹

の今後の成長が期待され、将来の発展が楽しみな存在となっています。

一方、以前からの樹木園のうち、縮小を免れた区画には大きな薬樹も健在であり、樹齢を重ねたトチュウやキハダが、樹下のダイオウなど冷涼地原産の草本に緑蔭をつくっており、安定した植物園を構成し、景観の一部となって周囲に馴染んでいます。

### ■管理上、気を付けていらっしゃる、苦労なさっていること

行き届いた丁寧な植物管理が伝わる園内ですが、これを維持する裏では、きっと苦労もあることと思います。そこで、山岡先生に単刀直入に伺ってみました。

「株数が少ないものや絶滅危惧種になっているものを絶やさないように、2か所の見本園や樹木園、圃場に分散させています。学生や薬剤師さんの研修会では、対象の植物の花を間違えないように、別種の花があれば移動や除去しています。」とのことで、先生のお人柄と、慎重な管理の賜物として、訪問すれば元気な植物たちに出会える植物園です。

### ■学生等に対するアプローチ(植物園への興味関心の喚起策、来園促進策など)

学生の興味を如何にして喚起し、植物園へ足を向けてもらうか?…これは、各大学の薬用植物園に共通の課題・悩みと言えます。これについても、山岡先生にお尋ねしました。

「1,2年生の実習で生薬・漢方薬を扱う際には、3年生の講義で薬用植物園に行くことを伝え、時にはキャンパス内や周辺で見られる薬用植物の話をしてします。けしの花の時期や春、秋には、講義内で各所の植物園、薬用植物園の案内をしています。」とお話でした。

## 【植物園 DATA】

### ■アクセス

JR 中央本線「相模湖」駅より、バス約 15 分  
「寸沢嵐」(すわらし)停留所下車

### ■見学を希望される場合のお手続き・注意点

大人数で見学を希望される場合は、事前にご連絡ください。電話 042-685-1121(代表)

(隣接する介護施設の番号です)

また、来園時のお手洗も、同施設に声をかけてご利用ください。

### ■公開講座

毎年 10 月頃に薬学部の公開講座があります。日頃も開園していますが、イベントに合わせて薬用植物園を一緒にご覧いただくのもよいかと思います。

### ■おわりに

緑深い環境に位置する当園では、園内のゆたかな薬用植物に加え、園の周囲に自生する植物群も同時に観察できるため、植物に詳しい方でしたら一層楽しく過ごせる場所です。都心からの距離は少々ありますが、時間を掛けて訪れる価値のある、すばらしい植物園です。

末尾となりますが、ご多忙の中、植物園の隅々までをご案内くださった山岡 法子先生ならびに村田 郁子先生に改めて御礼申し上げます、本記事シリーズの結びといたします。

# ・ 委員会だより ・

## 総務委員会

委員長 坪井 正樹

令和7年4月1日から、公益法人制度が改正されました。改正の内容としては、以下の3点になります。

- ①財務規律の柔軟化・明確化
- ②行政手続きの簡素化・合理化
- ③自律的ガバナンスの充実、透明性向上

このうち③に関しまして、法人運営が内輪の者だけで行われることによる法人の私物化を防止し、理事会運営の活性化等を図る観点から、理事及び監事に法人外部の人材を選任することを公益認定の基準とするとしており、外部理事・外部監事をそれぞれ1人以上設けることが義務付けられました。これに対応するために、総務委員会内の規程ワーキンググループで定款の変更及びそれに伴う関係規程の変更を検討しました。この変更を理事会及び定時総会に上程し、それぞれ原案通りに承認いただきました。

また、公益法人制度の改正とは関係ありませんが、新たに「特任理事」を設けることになり、これに係る定款及び関係規程の変更も理事会及び定時総会で承認いただきました。特任理事は専務理事と同様に業務執行理事としての役割を担い、当協会の特定の任務を分担執行することになります。

さらに、6月には17年振りに専務理事が交代になりました。新専務理事に相原かほる氏が就任され、新設の特任理事に前専務理事の末次大作氏が就任されました。当協会は令和7年度に新たな組織体制・役員体制でスタートします。

## 学術委員会

委員長 山内 盛

本委員会は年次計画の通り、開催されました。

### ○ 薬草観察会

春の観察会は計画通り開催されました。秋の植物観察会は皇居東丸御苑で開催予定です。ご存じのように開催地は江戸城址ですので、行路には石室・天守台跡・大番所などがあり、植物以外にも一見の価値がある場所です。

### ○ 生薬に関する懇談会

今回は40年目の記念すべき懇談会で「防風」をテーマに、令和7年10月5日(日)北里大学薬学部で対面・オンラインの2方式で日本生薬学会と共同で開催予定です。栽培・流通・成分・臨床と多方面にわたり、防風を丸裸にします。

### ○ 薬用植物・生薬・漢方に関する講座

例年通り8月から月一で5回、日曜日に開催します。講師は主に薬剤師・医師の先生方をお願いしています。

### ○ 『新常用和漢薬集』の改訂

本書は1973年に本協会より発刊され、237種の生薬を紹介しています。本協会HPへの掲載に際し、掲載内容を最新の日本薬局方・日本薬局方外生薬規格・各種学会情報に合致させるための作業が本委員会に委託され、以来改訂作業を続けています。現在、160種をHPに掲載し、最大の閲覧利用を頂いています。書店店頭が生薬学関係書籍を見掛けることが少なくなった今日、このような資料を提供することは、大変重要な使命と考えており、品目を増やすことに努めています。現在、新たに6品目と差替1品目の掲載を広報委員会をお願いしています。

### ○ 日本薬局方原案検討委員会等への参加

現在、日本薬局方は5年ごとに改正され、生薬等に関係する改正点を検討する目的で、PMDAが運営する日本薬局方原案検討委員会生薬等(A/B)委員会及び国立医薬品食品衛生研究所生薬部が運営するAMED研究班が編成されています。この他に厚労省が主幹する日本薬局方外生薬規格の改正に関わる連絡会等も編成されています。改正点が生薬市場品と乖離しないよう検討する目的で、本委員会からは合計6名の委員を派遣しています。また、これら委員会等からの要請により会員企業各社からは使用生薬の各種データ等の情報を御提供頂いています。

(次ページへ続く)

## 事業管理委員会

委員長 加賀 亮司

近年の異常気象で、夏場以降も猛暑の日が続き東京都薬用植物園では来園者が前年を下回る傾向にあります。植生の面でも開花の時期が変わったり、例年見られていたものが咲かなくなったりしています。

とくに人気者の一つだったメコノプシス(ヒマラヤの青いケシ)は、温暖化のせいでしょうか、この数年開花が見られず、来園者に配布するパンフレット「四季の薬草」への掲載をやめました。

関東一円でブナ科の樹木を枯らし、園でも大きな被害を受けたナラ枯れは、この数年で多くの伐採を行いました。昨年からは下火になってきました。

「薬草教室」の人气が高く、令和6年度4月、5月、6月と立て続けに定員オーバーとなり、せっかく来園されたのに聴講できないという方がたくさんおられたので、7月以降事前予約制での開催となりました。

来園者の方が少しでも気持ちよく園内を見学できるように、除草作業をはじめ園内掲示の改善等を進めています。

令和7年度も普及啓発事業として薬草教室を8回、薬草観察会を2回、そしてその他のイベントを20回(草屋舎共催事業11回と(公社)東京薬事協会との共催1回を含む)計画し、来園者に喜んでもらえるよう事業運営に努めます。

## 薬用植物国内栽培事業委員会

委員長 小林 義典

現在、秋田県八峰町、秋田県美郷町、新潟県新潟市、岐阜県岐阜市、大分県杵築市の5自治体と当協会、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所との間で「薬用植物の国内栽培の促進に関する連携協定」を結んで栽培事業を行っています。なお、今年3月末日に連携協定の期限となる美郷町、新潟市、岐阜市、杵築市と4月1日付けで連携協定の変更覚書(延長)を締結しました。

農林水産省・国庫補助事業「薬用作物等地域特産作物体制強化促進・全国的な支援体制の整備事業」がこの3月で3年の期間終了となりました。そこで令和7年度国庫補助事業として新たに「カンゾウ栽培」を申請しましたが、残念ながら採択

されるには至りませんでした。

試験栽培として、八峰町では4品目、美郷町では5品目、新潟市では20品目、岐阜市では5品目、杵築市では14品目を扱っています。雑草や病虫害対策、植え付けや収穫・調製の省力化などの改善が各自治体で順調に進んでいますが、猛暑や異常気象という新たな問題が生じて収穫に大きく影響しています。

栽培に関する情報交換検討会、薬用植物栽培技術研修会を適宜開催し、連携協定自治体と栽培農家、当協会栽培指導員との情報共有に努めています。

なお、各自治体における試験栽培品目、情報交換検討会、栽培技術検討会などの詳細は「令和6年度事業報告書」に記載されていますので参照願います。

## 広報委員会

委員長 池村 国弘

「会報」479号をお届けします。

前号の会報より、東京生薬協会 Web サイト(<https://www.tokyo-shoyaku.com/>)へのPDFファイルの掲載をもって、発行としております。印刷物の郵送を終了させて頂きましたことに、ご理解を賜りましたら幸いです。

寄稿「生薬のチカラは、漢方のチカラ」「ロシア・プリモリーエ植物紀行」では、今回も貴重な情報豊富な記事をご寄稿頂きました。両連載とも回を重ね、川添和義先生、いがりまさし先生のご研究やご活動の動向を継続的にお届けできていることを光栄に思います。

「薬用植物園を訪ねて」では、神奈川県北西部にある帝京大学薬用植物園を取材させて頂きました。同植物園の所在地は、現在は相模原市ですが、本文中にもある通り、合併以前は津久井郡相模湖町でした。湖を囲む山々に抱かれ、風光明媚な植物園の魅力をお届けできていれば幸いです。これまでの同シリーズで訪問させて頂いた薬用植物園は、今回を含めて8施設となりました。植物園それぞれに異なった特色や雰囲気、そして魅力を、記事としてお届けできたかと存じます。各植物園におかれましては、日常の管理業務等がご多忙の中、職員の皆さまには取材のご対応を賜りましたこと、この場にて改めて、深く御礼申し上げます。なご目下のところ、次号では植物園の訪問をお

休みし、協会の歴史を振り返る記事をお届けする予定で、準備を進めております。ちょうど協会 Web サイト上に「歴史・沿革」のページを、本年6月より公開したところです。こちらも閲覧いただけましたら幸甚です。また「会報」をお読みの皆さままで、当協会の古い資料やお写真等をお持ちで、会報誌上や Web サイトでの公開がお差し支えない場合は、広報委員会(g2koho@tokyo-shoyaku.com)までご一報頂けますと幸いです。当協会の70余年の歴史を物語る貴重な歴史的資料として、大切に扱わせて頂きます。

さて、当欄「委員会だより」につきましては、昨今は会議やイベント等の簡条書き報告が主体となり、「連絡事項」と重複した内容も生じておりました。以前は、委員会「だより」の名称らしく、各委員長の所感をまじえた「おたより」調の報告文をお届けしておりましたので、今回からは情報重複の回避も兼ねて、以前の体裁を復活させております。

最近の当協会 Web サイトのアクセス状況は、次表のようになっております。なお前号(478号)の当欄における2024年12月のページビュー数は、月の途中までの集計値を掲載しておりました。本表の掲載をもって、訂正させていただきます。

#### ■ Web サイトのアクセス状況

	ページビュー数	前年同月比
2024(令和6)年12月	51,658	131.1%
2025年1月	38,501	90.3%
2月	35,089	94.1%
3月	40,805	96.8%
4月	66,480	97.3%
5月	87,246	109.9%
6月	67,850	88.9%

# 連絡事項

## I. 令和6年度第3回理事会

日時：令和7年3月11日(火) 16:00~17:00  
場所：当協会 東神田事務所+オンライン会議  
議案・報告事項：

1. 令和7年度事業計画書(案)、収支予算書類(案)について
2. 会員の入退会について
3. 委員会委員の新任について
4. 連携協定変更覚書について(美郷町、新潟市、岐阜市、杵築市)
5. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況について
6. 農水省国庫補助事業応募申請について

## II. 令和7年度第1回理事会・定時総会

### 第1回理事会

日時：令和7年6月2日(月) 16:00~17:00  
場所：当協会 東神田事務所+オンライン会議

### 定時総会

日時：令和7年6月19日(木) 16:00~17:00  
場所：当協会 東神田事務所+オンライン会議  
議案・報告事項：

1. 令和6年度事業報告書(案)、計算書類(案)について
2. 定款一部変更及び規程の一部変更について
3. 会員の入会について
4. 理事の新任・退任について
5. 相談役の推薦について
6. 委員会委員の新任について
7. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
8. その他

## III. 行事報告

### 1. 令和7年度薬草教室

第1回 開催日：令和7年4月17日(木)  
10:00~11:30

場 所：東京都薬用植物園  
テーマ：尾瀬の自然を楽しむ  
講 師：山田 典一(みなかみガイド協会)

参加者：100名

第2回 開催日：令和7年5月15日(木)  
10:00~11:30

場 所：東京都薬用植物園  
テーマ：つらい痛みがなくなる漢方  
講 師：新井 信(東海大学医学部  
客員教授)

参加者：100名

第3回 開催日：令和7年6月18日(水)  
10:00~11:30

場 所：東京都薬用植物園  
テーマ：色で梅雨を乗り切る  
講 師：田中 光子(色彩心理カウンセラー)

参加者：100名

### 2. 春の薬草観察会

開催日：令和7年4月19日(土)10:00~15:00  
場 所：横沢入(東京都あきる野市)  
講 師：池村国弘、南雲清二、福田達男  
(五十音順)

参加者：49名



3. 神田祭 2025、神幸祭

日 程：令和7年5月10日(土)：神幸祭(メインイベント)

日本橋・薬祖神で献饌：16時30分から



ご寄附をいただいた皆様へ

一般寄附金の趣旨にご賛同並びにご寄附をいただきまして、お礼申し上げます。

皆様からいただきました一般寄附金については、寄附金総額の25%以上を翌年度以降に行われる公益目的事業に使用させていただきます。

令和6年度の「一般寄附金」の件数と金額を公表させていただきます。

今後とも公益目的事業へ一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年4月1日～令和7年3月31日

件数	金額
28件	¥19,258,000

# 新 役 員 名 簿

	役職名	氏 名	勤務先及び役職名
理 事	会 長	藤井 隆太	株式会社龍角散 代表取締役社長
	副 会 長	上原 茂	大正製薬株式会社 代表取締役社長
	〃	田中 英雄	養命酒製造株式会社 代表取締役社長
	〃	加藤 照和	株式会社ツムラ 代表取締役社長
	〃	堀 厚	救心製薬株式会社 代表取締役社長
	専務理事	相原かほる	個人正会員
	特任理事	末次 大作	個人正会員
	常務理事	建林 佳壯	株式会社建林松鶴堂 代表取締役社長
	〃	片桐 仁史	株式会社太田胃散 執行役員信頼性保証部 部長
	〃	渡邊 康一	三宝製薬株式会社 代表取締役社長
	〃	立崎 仁	株式会社常磐植物化学研究所 代表取締役社長
	〃	竹内 眞哉	株式会社山崎帝國堂 代表取締役社長
	〃	大泉 高明	株式会社大和生物研究所 代表取締役社長
	理 事	山崎 充	株式会社金冠堂 代表取締役社長
	〃	家高 敏彰	長野県製薬株式会社 代表取締役社長
	〃	山内 盛	個人正会員
	〃	樋口 隆	三国株式会社 取締役東京支店長
	〃	小池 智弘	田村薬品工業株式会社 研究開発本部製品企画部長
	〃	陳 志清	イスクラ産業株式会社 代表取締役社長
	〃	福井 厚義	大東製薬工業株式会社 代表取締役社長
	〃	清水雅楽乃	アステナミネルヴァ株式会社 代表取締役社長
	〃	小林 義典	北里大学薬学部附属東洋医学総合研究所 所長
	〃	宇津 善博	宇津救命丸株式会社 代表取締役会長
監 事	監 事	坂口 眞弓	個人正会員
	〃	渡邊 謹三	個人正会員

令和7年度 事業・イベント予定一覧（事業別）

事業		テーマ	日程	場所	講師（敬称略）	
1号事業 (学術委員会)	薬草観察会	春	春の薬草観察会	令和7年4月19日(土)	武蔵五日市・横沢入(東京都あきる野市)	池村・福田・南雲
		秋	秋の薬草観察会	令和7年9月27日(土)	皇居東御苑	池村・福田・南雲
	生薬に関する懇談会	第40回	防風(ポウフウ)	令和7年10月5日(日)	北里大学薬学部	日本生薬学会と共催
	薬用植物・生薬・漢方に関する講座(5回)	第1回	夏の漢方活術 おなか(腸)の不調に効く漢方	令和7年8月31日(日)	東京都薬用植物園	針ヶ谷 哲也(金匱会診療所 理事兼局長) 星野 卓之(北里大学東洋医学研究所漢方鍼灸治療センター長)
		第2回	生薬のチカラは、漢方のチカラⅥ 女性の漢方Ⅴ	令和7年9月28日(日)	〃	川添 和義(昭和大学薬学部 教授) 高木 嘉子(ヨシコクリニック 院長)
		第3回	チャノキの効用と、茶西、炭茶養生記 気分面に効く漢方Ⅳ	令和7年10月26日(日)	〃	小林 義典(北里大学薬学部 東洋医学総合研究所 所長) 梓淵 彰(青山学院クリニック 院長)
		第4回	薬を創った植物たち 消化器疾患と漢方	令和7年11月30日(日)	〃	松崎 佳一(日本大学薬学部教授) 及川 哲郎(東京医科大学教授)
第5回		香りと氣の巡りの話 漢方診療の基礎と極意	令和7年12月21日(日)	〃	小池 一男(東邦大学薬学部 名誉教授) 新井 信(東海大学薬学部 客員教授)	
新常用和漢薬集の改訂	旧版収載の和漢薬(236品目)について内容を見直し、ホームページに公開(160品目公開中)、日本薬局方(18局)追補と照合し、改訂作業を実施					
1号事業 (編纂委員会)	薬草収穫感謝の会	生薬・薬用植物の一年の収穫を感謝し、講演会、植物観察会を開催する。	令和7年11月1日(土)	東京都薬用植物園	共催：東京都、(公社)東京生薬協会、(公社)東京薬事協会、(公社)東京都薬剤師会、本町生薬会	
1号事業 (事務局)	OTC医薬品とセルフメディケーション	第17回 よく知って、正しく使おう OTC医薬品	令和7年10月3日(金) ・4日(土)	神田明神・文化交流館	共催：6団体(東京生薬協会、東京薬事協会、日本家庭薬協会、日本OTC医薬品協会、東京都薬剤師会、東京都医薬品登録販売者協会) 後援：東京都、厚生労働省、千代田区、	
1号事業 (広報委員会)	会報の発行	第479号、第480号	令和7年7月 令和8年1月	会報No.479/2025.7発行 巻頭言：松田知己秋田県美郷町長、生薬解説：磯田 進、 会報No.480/2026.1発行 巻頭言：藤井隆太、東京都福祉保健局健康安全部長、生薬解説：磯田 進		
	協会ホームページの更新	「お花の見ごろ情報」「最新イベント情報」「新常用和漢薬集」「協会概要」等の更新				
1号事業② (事業管理委員会)	東京都薬用植物園受託事業	東京都薬用植物園の受託管理事業の充実と共に、栽培技術の向上と伝承を図り、薬用植物や生薬に対する知識・情報を国民に対し正しく普及啓発する活動を積極的に実施する。			1) 東京都薬用植物園の事業管理 2) 薬用植物や生薬の普及啓発事業 3) 研修業務 4) 薬用植物、生薬の栽培業務 5) 薬用植物、生薬の収集・保存・展示業務 6) 調査研究補助業務 7) 鑑定、鑑別補助業務	
	薬草教室(8回)	第1回	尾瀬の自然を楽しむ	令和7年4月17日(木)	東京都薬用植物園	山田 典一(みなかみガイド協会)
		第2回	つらい痛みがなくなる漢方 ～関節痛・腰痛・頭痛を治す!～	令和7年5月15日(木)	〃	新井 信(東海大学医学部 客員教授)
		第3回	色のかで梅雨を乗り切る	令和7年6月18日(水)	〃	田中 光子(色彩心理カウンセラー)
		第4回	末病に役立つ植物	令和7年7月17日(木)	〃	杉本 幸子(順天堂大学薬学部 准教授)
		第5回	東京の森を歩く その2	令和7年9月18日(木)	〃	福嶋 司(東京農工大学 名誉教授)
		第6回	渡良瀬の魅力ある植物	令和7年10月17日(金)	〃	加藤 裕一(日本植物友の会 理事)
		第7回	東洋医学における養生 ～名僧(沢庵、白隠)に学ぶ～	令和7年11月19日(水)	〃	小林 義典(北里大学薬学部 教授)
		第8回	春に向けて薬用植物を学ぶ	令和7年12月16日(火)	〃	三宅 克典(東京薬科大学 准教授)
	イベント事業(18回)	第1回	ケシのパネル展	令和7年4月15日(火)～5月15日(木)	〃	展示
		第2回	春の植物に親しむ ～いろいろな角度から観察してみよう～	令和7年4月26日(土)	〃	和田 浩志(東京生薬協会)
		第3回	ケシのミニ講座	令和7年5月5日(月)・6日(火)	〃	薬用植物園職員
		第4回	草木染・カモミール	令和7年5月24日(土)	〃	山 浩美(園芸研究家)
		第5回	ハーブ講座食べられるハーブで作るリース	令和7年6月14日(土)	〃	浅井 昭子(Herb House tentou主宰)
		第6回	季節のアレンジ フレッシュリース	令和7年6月28日(土)	〃	田淵 清美(アトリエ clover主宰)
		第7回	夏休み親子植物教室 葉っぱで絵をかこう・花のおしりを作ろう	令和7年7月26日(土)	〃	中山 麗子(草星舎7+1加沢7)
		第8回	薬草クイズラリー	令和7年8月24日(日)	〃	東京生薬協会
		第9回	落語に見る食の風景 その9	令和7年10月18日(土)	〃	一升亭吾介(落語研究家)
第10回		ハーブ講座 レモンクラスで作るクラフト	令和7年10月25日(土)	〃	浅井 昭子(Herb House tentou主宰)	
第11回	多肉植物を育てましょう	令和7年11月8日(土)	〃	山 浩美(園芸研究家)		
第12回	野草散歩の春夏秋冬	令和7年11月15日(土)	〃	池村 国弘(植物案内人)		
第13回	アマゾン野草紀行	令和7年11月29日(土)	〃	山下 智道(野草研究家)		
第14回	季節のアレンジ フレッシュなグリーンで作るクリスマスツリー	令和7年12月6日(土)	〃	田淵 清美(アトリエ clover主宰)		
第15回	木の実・草の実リース作り教室	令和7年12月11日(木)	〃	中山 麗子(草星舎7+1加沢7)		
第16回	季節のアレンジ お正月に向けてしめ縄作り	令和7年12月20日(土)	〃	神蔵 いくよ(園芸研究家)		
第17回	健康講座	令和8年3月6日(金)	〃	公益社団法人東京薬事協会		
第18回	ポタニカルアート&東洋蘭展	令和8年3月13日(金)～15日(日)	〃	公益社団法人東京生薬協会		
3号事業 (学術委員会)	日本薬局方原薬検討委員会への参加		生薬等A委員会および生薬等B委員会に委員を派遣する。			
3号事業 (栽培管理委員会)	視察研修	美郷町栽培地研修	令和7年7月13日(日)	開会式：美郷町住民活動センター 植樹会場：旧花園スキー場	薬樹の森づくり活動植樹事業	
	薬用植物国内栽培の実施	秋田県八峰町、秋田県美郷町、新潟県新潟市、岐阜県岐阜市、大分県杵築市の5自治体				
4号事業 (学術委員会)	薬用植物指導員認定者 フォローアップ研修	薬草観察会	令和7年4月19日(土)	武蔵五日市・横沢入(東京都あきる野市)		
共益事業 (編纂委員会) (事務局)	現代化中医薬国際協会(MCMA) との交流	1) 訪問先：MCMCM展示会場、衛生局訪問 2) 展示会で薬用植物栽培事業、東京都薬用植物園のポスターを掲示				
	薬用植物生け花展	秋の七草	令和7年10月17日(金)	昭和薬ビル2F直会会場	薬祖神奉賛会協力事業	
	新年賀詞交歓会		令和8年1月26日(月)	神田明神会館		

※予定日等が変わる場合がありますので、開催日の1ヶ月前位に電話等でご確認をお願いいたします。  
問い合わせ先：公益社団法人東京生薬協会 042-346-2663

## (表紙) 四季の薬草・ウコンの解説

元昭和大薬学部 磯田 進

## ウコン

ウコン *Curcuma longa* L. (Zingiberaceae ショウガ科)は熱帯アジア原産の多年生草本植物、やや湿り気のある環境に自生しています。葉は有柄で長楕円形となり無毛、草丈は1mくらいになります。根茎は不定形で肥大し、内部は鮮黄色になります。花は黄色で穂状花序の苞葉の間から生じ、夏から秋にかけて開花します。また下部の苞葉は淡緑色ですが、先端部は白色を帯びています。香辛料や薬用として紀元前から栽培されました。日本へは江戸時代に渡来したといわれています。

## 和名と学名

和名は薬用として利用する生薬から名づけられました。またハーブ名や英語名をターメリックとも言います。中国ではウコンのことを姜黄(キョウオウ *C. aromatica*)といい、内部は青緑色を呈し別種になり、混乱しています。また先端部の苞葉は白色ではなく、淡紅色を帯びています。学名の *Curcuma* はアラビア語で黄色を意味し、根茎の色から名づけられました。種小名の *longa* は長い葉に由来しています。

## 生薬

薬用には細根を取り除いた根茎をそのまままたはコルク層を除いたものを、通例、湯通した後に乾燥したものを、ウコン(鬱金)といいます。コルク層を除いたものは濃い黄赤色を呈していることが多く、横切面は黄褐色から赤褐色を呈し充実に堅く、特有の匂いがあります。味は僅かに苦味や刺激性を感じるものを良品とします。また嘔吐と唾液が黄色を帯びます。

## 成分と薬効

根茎の成分はポリフェノール類の curcumin、精油の zingiberene、*d*-*a*-phellandrene、cineol などを含んでいます。芳香性健胃、鎮痛、駆お血、消炎止血などの作用があり、軟膏の中黄膏(ちゅうおうこう)などに配合されています。また香辛

料として用いますので、カレーが黄色いのはウコンが用いられているからです。その他、スパイスとして各種料理などに用いられます。食用以外では黄色の染料としても利用されています。

## コラム

以前、カレー専門店ですらで食事をした時のことです。カレーは自慢するだけあってとても美味しく頂くことができ大満足でした。食事代を支払う際、レジの横に置かれているウコンが目にとまりました。そこでこれは何ですかと尋ねましたところ、店員さんは当店のカレーに用いる香辛料のウコンだと説明を受けました。またカレーが黄色いのはこのウコンという香辛料によるもので、最高級のものを用いているからだとして自慢げにお話しされました。再度、私はどのような植物ですかと質問したところ、ショウガと同じ仲間だと説明を受けましたが花は見たことがないとのことでした。

私は思わず、花は夏に東京の小平市にある東京都薬用植物園に行けば見られますよと紹介しようと思いましたが、それでは店員さんの顔を潰してしまうことになり、お話しせずにレストランを後にしました。



苞葉の間から覗く花



根茎の外観



根茎の内部



生薬 ウコン(1目盛=1mm)

No.479

東京生薬協会会報



発行/公益社団法人 東京生薬協会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-11-4  
東神田藤井ビル 7F  
TEL 03-3866-5522 FAX 03-5809-3855  
<https://www.tokyo-shoyaku.com/>  
発行/2025年7月31日